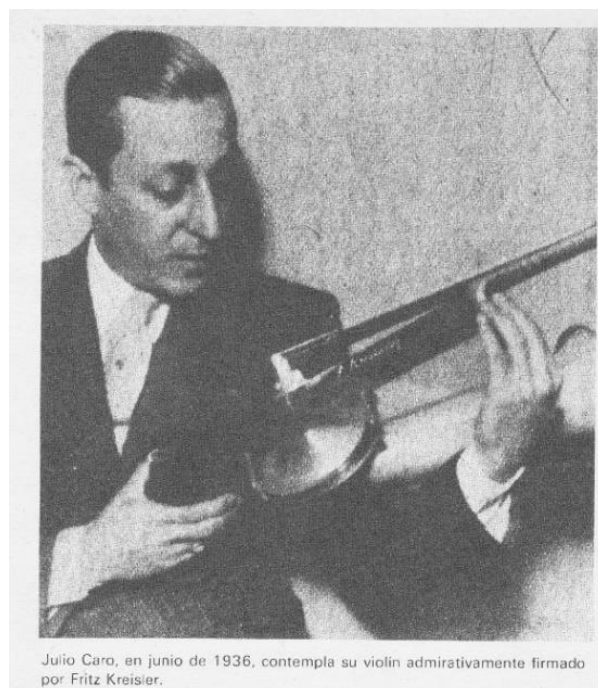


フリオ・デ・カロとホルネット・バイオリン

齋藤 富士郎

タンゴの録音にホルネット・バイオリンを使うことを提案したのはシンフォニック・ジャズ・バンドで有名であったポール・ホワイトマンである。彼はタンゴにも興味があった。そして彼は当時米国にいたファン・カルロス・コビアーンのレコードを聴いて「良く鳴っていない」という印象を持ち、技術部長であったシェニングに録音の時にホルネット・バイオリンを使うことを示唆した。勿論、デ・カロはこの時の会話は知るわけがない。その後、シェニングが南米歴訪の途上でブエノス・アイレスに立ち寄った時にデ・カロに会い、ホルネット・バイオリンの使用を強く勧めた。デ・カロは初め拒否したが、説得されて使い始めた。ホルネット・バイオリンは顎が高く、デ・カロは使い慣れるのにかなり苦労した。しかしその甲斐あってホルネット・バイオリンはデ・カロに大きな成功をもたらした。

この頃、世界的に高名であったバイオリン奏者のフリッツ・クライスラーがアルゼンチンを訪れた。その時デ・カロはホルネット・バイオリンでクライスラーの前で演奏することを求められた。デ・カロはこちこちに緊張しが、それでも *El entrerriano* 他、タンゴを何曲か演奏した。クライスラーはすっかり感動して、驚ペンをけずるためのナイフを取り出し、そのホルネット・バイオリンに *Fritz Kreisler* とサインした。随分と乱暴な話だが、デ・カロにとっては貴重なサインとなった。右の写真にあるのがそのホルネット・バイオリンで、指板の部分に *Kreisler* という字が見て取れる。



参考資料

[1] Horacio Ferrer, “Libro del Tango”

[2] “Reportaje a Julio De Caro”, 1880. UN SIGLO DE HISTORIA.1980, No.16, p.252